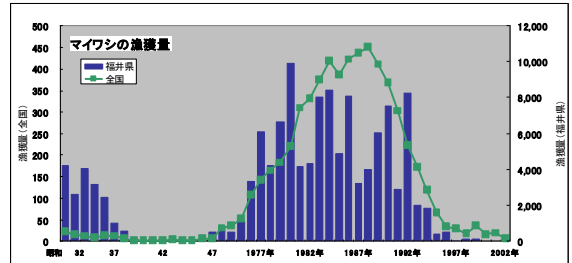


日本海中部海域におけるマイワシ資源
— 増加期における漁況の特徴 —

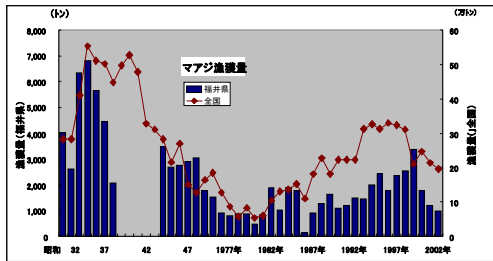


第9回資源研究会 ミニシンポ

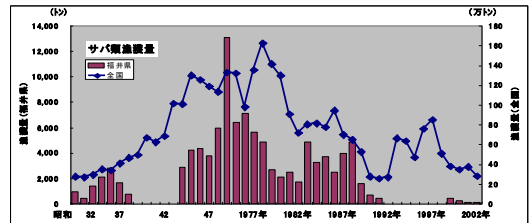
安達辰典(福井県水産試験場)



マイワシ漁獲量の経年変化(全国・福井県)

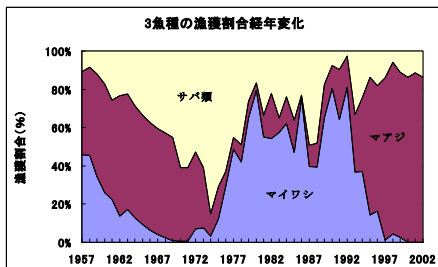


マアジ漁獲量の経年変化(全国・福井県)



サバ類漁獲量の経年変化(全国・福井県)

福井県におけるサバ類・マイワシ・マアジの漁獲割合



サバ類・マイワシ・マアジの漁獲動向(昭和30年以降)

サバ類

福井県: マサバ主体で昭和60年をピークにして増減、現在は減少傾向継続
全 国: マサバ主体で昭和62年をピークにして増減、平成7~9年に増加後減少

マイワシ

福井県: 昭和30年と昭和55~62年に増加し、現在は殆ど漁獲されない。
全 国: 昭和57~60年をピークにして増加し、現在は減少傾向継続。

マアジ

福井県: 昭和33年をピークに増加後減少し、平成11年にかけて増加し再び減少
全 国: 昭和38年をピークに増加後減少し、平成4~11年にかけて増加し再び減少

特 徴

3種ともに、福井県と全国は共通した増減
増加と減少時期が3種で異なり、交替している

若狭湾でのサバ・イワシ・アジの漁業

- 1950 ~ 1980 年代

中小型まき網漁業の全盛期(50ヶ航が就航)、
さば釣り漁業も盛んであった。

↓
- 1980 ~ 1970 年代

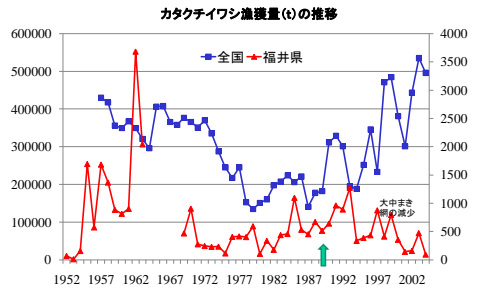
小型まき網漁業は無くなる。
大中型まき網漁業が主体(6ヶ航が就航)、
さば釣り漁業はすたれる。

↓
- 1970 ~ 1980 年代

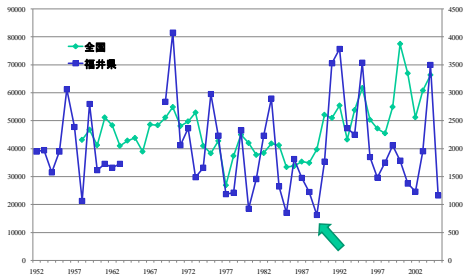
大中型まき網が漁獲の主体。

↓
- 1980 年代 ~ 現在

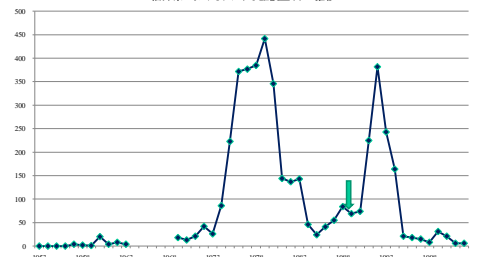
大中型まき網が減少。
2003 年には県内にまき網漁業が無くなる。
現在の漁獲の主体は定置網漁業となる。



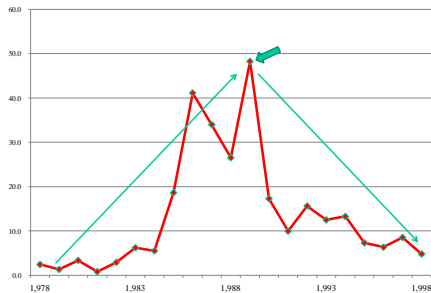
ブリ類漁獲量(t)の推移



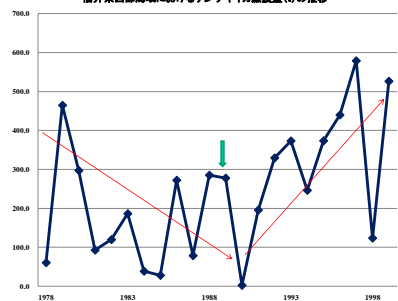
福井県におけるタチウオ漁獲量(t)の推移



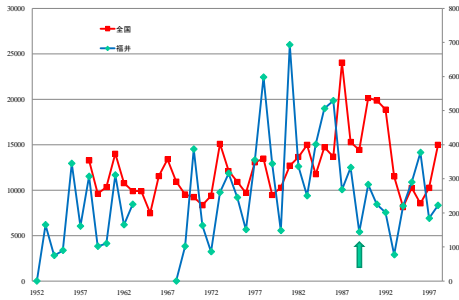
福井県西部海域におけるトラフグ漁獲量(t)の推移



福井県西部海域におけるケンサイキカ漁獲量(t)の推移



シイラ漁獲量(t)の経年変化



地先水温データを観測した場所

観潮場名 三国(MIKUNI) 登録番号 1606 所在地 福井県坂井市三国町
 管理者 国土地理院北陸地方測量部 観測開始 昭和42年12月(1967年)

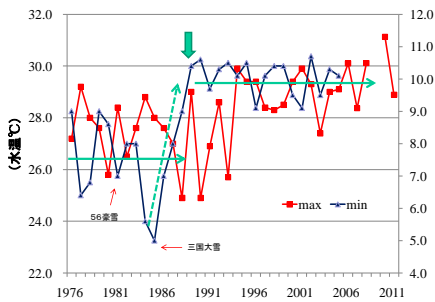
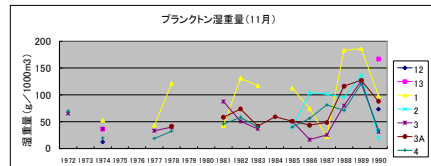
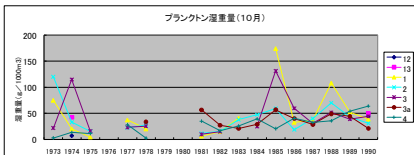
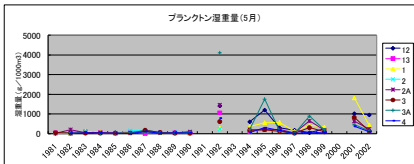
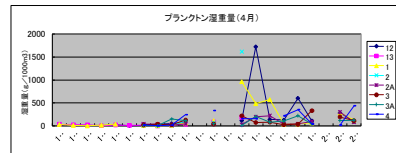
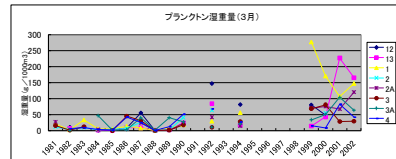


図 三国観潮所における年別最高・最低水温の推移



プランクトン湿重量

3~5月は、1989年以降増加傾向(？)

10~11月は1990年にかけて増量傾向(？)

湿重量のみで検討は困難

GG54では植物プランクトンは判らない

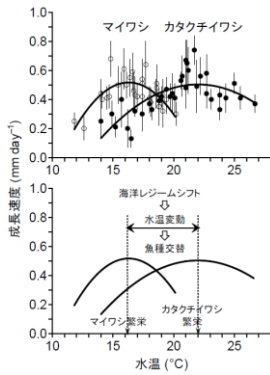


図2. カタクチイシ仔魚及びマイワシ仔魚の成長速度と水温の関係とそれに基づいて魚種交替現象を説明する「成長速度最適水温」仮説の概念図。

高須賀(2009)より引用

マイワシとマアジやマサバではどうなるのか？

今後の調査において課題として考えられるもの

- ・東シナ海～日本海におけるマイワシ仔稚魚期の分布
- ・海洋環境(海洋動態)の把握
- ・動物・植物プランクトン分布の把握(餌料環境)
- ・捕食者の把握(被食関係)
- ・漁獲の影響の把握
- ・レジームシフトは2段階なのに、魚種交代は3魚種(温暖レジーム時の微小変化の影響把握)
- ・調査船による広範囲の調査が必要となる。
研究者は海に出よう